



第32回日本乾癬学会学術大会
ランチョンセミナー5

乾癬と体内時計

Circadian biology of psoriasis

座長

大槻 マミ太郎 先生

自治医科大学付属病院 皮膚科学 教授

演者

中尾 篤人 先生

山梨大学医学部 免疫学講座 教授

ご参加の皆様には、お弁当をご用意しております（数に限りがあります）。

日時

2017年9月8日（金）
12:35~13:35

会場

E会場（5F 霧島）
品川プリンスホテル・アネックスタワー
〒108-8611 東京都港区高輪4-10-30

共催：第32回日本乾癬学会学術大会／ファイザー株式会社

NPP22H001A
2017年7月作成

乾癬と体内時計

Circadian biology of psoriasis

中尾篤人 (なかおあつひと)¹、安藤典子 (あんどうのりこ)²、
川村龍吉 (かわむらたつよし)²、島田眞路 (しまだしんじ)²
山梨大学医学部免疫学講座¹、皮膚科学講座²

Atsuhito Nakao¹, Noriko Ando²,
Tatsuyoshi Kawamura², Shinji Shimada²
Department of Immunology¹, Department of Dermatology²,
Faculty of Medicine, University of Yamanashi

ヒトを含むほ乳動物の細胞内では、“時計遺伝子”と呼ばれる遺伝子群が約24時間周期のリズム(概日リズム)を自律的に作り細胞の“時計”(概日時計)として機能している。この時計遺伝子タンパク質の自律的な振動が各臓器や組織に応じた固有の生理活動に概日リズムを生み出している。

近年、乾癬の発症率がシフトワーク(夜勤)する看護師で高いこと(J Invest Dermatol 2013)、通常みられる夜間の血圧低下が乾癬患者では見られない(Wien Klin Wochenschr 2012)ことなど、乾癬と概日時計の関係を示唆する報告がされている。

そこで我々は*乾癬の病態に概日時計が関与しているという仮説を立て検証した。その結果、イミキモド(imiquimod)塗布による乾癬様皮膚炎モデルにおいて時計遺伝子Clockが皮膚 γ/δ T細胞におけるIL-23受容体の発現調節を介して乾癬様皮膚炎を制御していることを証明した(J Invest Dermatol 2015)。

本講演ではそれらの研究を紹介し乾癬と概日時計の関係について議論したい。特に夜勤や都市型社会における昼夜の明瞭な明暗環境の消失、パソコンやスマホのブルーライトによる概日時計への影響など現代社会に特有の“概日時計かく乱因子”が近年の乾癬患者の増加に寄与している可能性についても考察する。